

# 社会福祉学研究科 社会福祉学専攻修士課程（通信教育）

□授与学位：修士（社会福祉学）

□標準修業年限：2年

□入学定員：30名

## 1. 専攻の3つのポリシー

### ◆アドミッションポリシー

社会福祉学専攻 修士課程（通信教育）は、社会福祉、保健・医療・介護、教育・保育の領域に関する基礎的な素養を身につけており、さらに現代社会の複雑化する問題に対して解決志向の研究力、実践力を身につけたい人を受け入れる。

### ◆カリキュラムポリシー

社会福祉学専攻 修士課程（通信教育）は、下記の通り、特講科目、領域演習科目、特別研究指導科目により教育課程を編成し、実施する。

特講科目は、研究に取り組む上での視点、研究計画の立て方、研究の進め方、研究方法の基礎の理解を深めるため、社会福祉の政策論、計画論、実践・援助方法論について専門的に学ぶ。

領域演習科目は、福祉政策領域、福祉臨床領域、地域福祉領域を設け、総合的・実証的な研究及び教育を進める。

特別研究指導演習科目は、1年次に基礎的な研究方法を習得した上で、2年次に研究計画書、課題小論文、修士学位請求論文執筆計画書を提出する。修士論文中間報告会、修士論文報告会での発表・質疑によりプレゼンテーション能力を高め、研究の到達点を確認し、修士論文完成、最終試験合格に向けた力量を養成する。

### ◆ディプロマポリシー

社会福祉学専攻 修士課程（通信教育）は、次に該当する者に修士（社会福祉学）の学位を授与する。

社会福祉とその関連領域が直面する課題の歴史的背景と本質を深く理解し、「人・社会・生活」に注目する視点を軸にソーシャルワークのグローバル定義に基づく実践や研究を遂行できる能力、かつ、社会福祉の現場や教育、研究において指導的役割を担い得る能力を修得している者。

#### 「知識・理解」

- \*社会福祉とその関連領域が直面する課題の背景と本質を理解し、歴史的、理論的に説明することができる。
- \*社会変革、社会的結束および人々のエンパワメントを促進する実践や教育、研究を遂行することができる。

#### 「思考・判断」

- \*人々の生活に注目し、社会的な枠組において福祉課題の解決をめざすことができる。
- \*社会福祉の「価値」をふまえた思考・判断ができる。
- \*ミクロ・メゾ・マクロを俯瞰する視野を持ち、多角的に発想していくことができる。

#### 「技能・表現」

- \*説明を求められた課題について、説得力のある意見を述べるができる。
- \*学術的な枠組みに沿って調査を行い、根拠に基づき批判的かつ論理的な文章を記述することができる。
- \*事実・根拠・理由を示しつつ、仲間や教員と議論を積み上げていくことができる。

#### 「態度」

- \*社会福祉や関連分野の倫理に配慮して実践や研究を行うことができる。
- \*社会福祉の現場や研究、教育において指導的役割を担うことができる。

## 2. 専攻の概要・教育課程の特色



### 伝統ある指導体制と充実したプログラム

社会福祉学研究・教育のパイオニアである日本福祉大学の専任の教授陣および学内外の各分野のスペシャリストによる、質の高いカリキュラムと指導体制を誇ります。また、長年培ってきた独自の通信教育システムにより、確かな知識を修得し、修了できる充実したプログラムを編成しています。



### ITシステムを活用した効果的な研究・学習

テキスト購読、文書添削を中心としたこれまでの通信教育とは異なり、インターネットを利用してインタラクティブ（双方向・対話形式）な指導を行います。テキスト教材による学習を基礎としながら、インターネットを通じて教員の指導や助言を受け、また、院生間で討論や意見交換を行いながら学習・研究を進めます。教員・院生間のインターフェイスを密にすることによって、無駄のない高い学習効果をあげることを追及しています。



### 質の高い修士論文執筆に向けた、きめ細やかな指導体制

入学後、まずはスクーリングや演習の履修により、大学院における社会福祉の研究方法の基礎を修得し、その上で、修士論文指導教員が決定し本格的な研究を開始します。約1年半にわたり指導教員からスクーリング、インターネット掲示板、Eメール等を活用した厳しくきめ細かな指導を受け、質の高い修士論文執筆を目指します。遠隔地に住む院生も不利益なく計画的に研究が進められるよう、ひとりひとりに合わせた修士論文指導体制を整備しています。



### 社会人にとって学びやすいスクーリング

スクーリングは社会人が学びやすいよう土日に開催し、対面授業、修士論文指導、修士論文報告会、教員・院生交流会など、多彩な内容のプログラムを設けています。また、会場である日本福祉大学名古屋キャンパスは名古屋の都心部に立地（名古屋駅からJRで約10分）しており、全国各地に住む院生にとっては抜群の交通アクセスです。



### 修了後も学び続けられるネットワーク

スクーリングの機会に同窓会と大学院合同でシンポジウムや記念講演等を開催し、修了生に学習・交流の場を設けています。修了後も学び続けたいというニーズに応えるべく、大学院主催の公開講義、研究論集への投稿募集、研究科合同修士論文発表会の開催案内等を行っています。また、修了後、さらに高い研究能力・指導力の修得を目指す方は博士課程への進学や研究生として研究指導を受けることも可能です。

## 3. 修了要件

- 本課程に2年以上在学すること。
- 特講科目(必修1科目2単位を含む)10科目 **20単位**以上を修得すること。
- 領域演習3科目のうち、1科目 **4単位**を修得すること。
- 特別研究指導演習Ⅰ・Ⅱの2科目 **6単位**を修得し、  
必要な指導を受けた上で **修士論文を提出**し、その **審査に合格**すること。

## 4. カリキュラム

開講科目は、テキストをもとにインターネットシステムを活用して講義を行う「特講科目」と、領域ごとに複数の担当教員が設定する課題について学ぶ「領域演習科目」と、修士論文指導を行う「特別研究指導演習科目」により構成されています。

### (1) 特講科目

特講科目は、インターネット上の講義<sup>※1</sup>でありながらも対面授業に近いインタラクティブ(双方向・対話形式)な学習が展開できるよう、本学が独自に開発したポータルサイト[nfu.jp]システムを活用して、共同討議・意見交換などを通じた双方向の学習をおこないます。

集中的に学習できるよう、前期または後期のうちいずれか半期(15週)で開講され、テキストをもとに、原則として1週間に1講ずつすすめられます。毎週、担当教員から各講の討議課題が提示され、履修者は各自の意見をホームページに開設された講義室に投稿します。担当教員からのコメントおよび院生間のディスカッションが展開された後、次の講へと進められます。

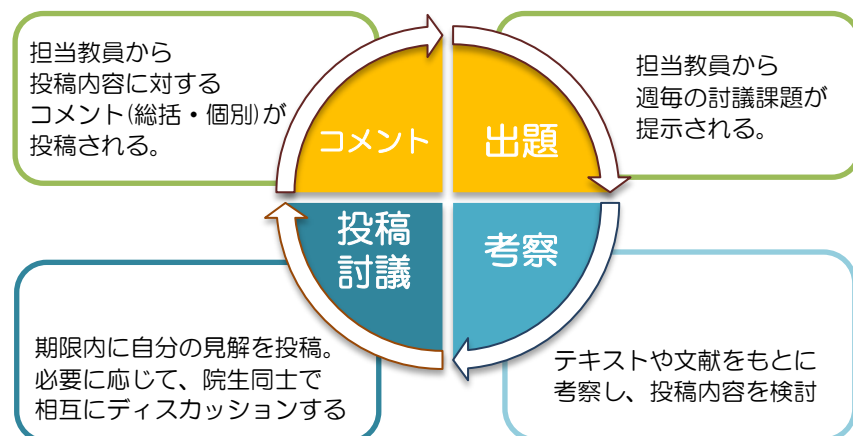
合計15週の講義のうち、中間期と期末にレポート提出が課せられ、インターネット講義の共同討議への参加とレポート提出により単位認定されます。

※1：特講科目のうち1年次必修科目である社会福祉研究法論特講については、インターネット上の講義(オンデマンド)に加えて、4月・7月のスクーリングで対面授業を実施します。

\*修了要件として、特講科目としては10科目20単位以上の取得が必要です。

\*インターネット上で学習する科目以外に、週末開講の授業(集中講義形式)も他専攻開講科目として開講し、対面授業での学習の機会も設けています。

### 《特講科目：1週間の学習サイクル》



### (2) 領域演習科目

領域演習科目(1年次選択必修科目)は、インターネットの講義用ホームページ(nfu.jp)での共同討議・意見交換などを通じた双方向の学習と、計4回(4月、7月、9月、12月)のスクーリングでの学習(領域の特性に合わせた内容の対面授業)の両方を併用しておこなわれる科目です。3つの領域(福祉政策領域・福祉臨床領域・地域福祉領域)のうちいずれかの領域演習を履修します。幅広い視野・多様な考え方を学習できるよう、領域ごとに1年間を3つの学習パートに分け、複数の教員が担当します。

第1学習パートでは研究の基礎について学び、第2学習パートでは領域独自の課題に基づいた共同討議を行い、第3学習パートではケースメソッド演習を導入して、集団運営に必要な相互理解の視点や、多角的な問題分析能力等を養います。

領域演習科目の単位認定には、インターネットでの共同討議への参加と合計3回のレポート提出および合計4回のスクーリング授業(4月、7月、9月、12月)への参加が必要とされます。

### (3) 特別研究指導演習科目(修士論文指導)

1年次前期の必修科目である特講科目「社会福祉研究法論特講」のオンデマンド講義とスクーリング授業、および、領域演習科目(第1学習パート)のインターネットでの共同討議やスクーリング授業を通じて、大学院における基本的かつ専門的な社会福祉の研究方法論について学習します。

4月、7月のスクーリング(教員・院生交流会)では、後期から開講される特別研究指導演習科目(修士論文指導)の指導教員を決める上での相談や支援がおこなわれます。1年次の前期末に、院生

の希望を聴取した上で修士論文指導教員が決定され、修士論文執筆に向けての個別の指導が始まります。

修士論文指導は、個別指導及び集団指導（ゼミ形式）により行われ、スクーリング時の対面指導の他、必要に応じてEメールやインターネット（nfu.jp）も活用しておこなわれます。

2年次の修士論文最終提出までの間には、研究計画書、課題小論文、学位請求論文執筆計画書の提出が課され、個々人の研究活動の到達点・課題を確認しながら、修士論文執筆に向けた多角的な指導がおこなわれながら、段階を踏んで修士論文を練り上げていきます。また、修士論文構想報告会、中間報告会、修士論文報告会での発表・質疑を経験することで、プレゼンテーション能力を高めるとともに、研究の到達点・課題を確認し、修士論文完成、最終試験合格に向けた力量を着実に養成します。

## 5. 学習・研究の進め方（イメージ）

	1年次			2年次		
	特講科目	領域演習科目	特別研究指導科目 (修士論文指導)	特講科目	特別研究指導科目 (修士論文指導)	
4月	前期講義開始 スクーリング	前期講義開始 スクーリング	研究計画書添削指導 (社会福祉研究法論特講)	前期講義開始 スクーリング	学位請求論文 執筆計画書提出	4月
5月	中間レポート提出	レポート①提出		中間レポート提出	スクーリング	5月
7月	スクーリング	スクーリング	指導教員決定	スクーリング	スクーリング	7月
	期末レポート提出	レポート②提出		期末レポート提出	修士論文中間報告会	
9月	単位認定 後期講義開始	スクーリング	スクーリング	単位認定	課題小論文提出	9月
	中間レポート提出	スクーリング	研究計画書提出	後期講義開始	修士論文第1次提出	
11月	中間レポート提出		スクーリング	中間レポート提出		修士論文報告会
12月	期末レポート提出	レポート③提出	課題小論文提出	期末レポート提出	修士論文最終提出	12月
1月	単位認定	単位認定	スクーリング	単位認定	口頭試問・最終試験	1月
2月			修士論文構想報告会		合格	2月
3月						3月
↓						
修了・修士学位授与						

## 6. 修士論文指導の主なスケジュール

1 年 次	4月	4月スクーリング ・社会福祉研究法論特講 ・領域演習（第1学習パート）
	6月	【第二次研究計画書】提出 （社会福祉研究法論特講）
	7月	7月スクーリング ・指導教員紹介、個別面談 ・2年の修士論文中間報告会を聴講 修士論文指導教員希望登録票提出
	9月	修士論文指導教員の決定 9月スクーリング ・修士論文対面指導 【研究計画書】提出 ◆
	12月	12月スクーリング ・修士論文対面指導 ・2年の修士論文報告会を聴講
	2月	【課題小論文】提出 ◆ 修士論文構想報告会 *
	3月	修士論文指導 研究科合同修士論文発表会を聴講
	4月	4月スクーリング ・修士論文対面指導 【修士学位請求論文執筆計画書】提出 ◆
	7月	7月スクーリング ・修士論文中間報告会 * ・修士論文対面指導
	9月	【課題小論文】提出 ◆ 9月スクーリング ・修士論文対面指導
2 年 次	12月	【修士論文】第1次提出 ◆ 12月スクーリング ・修士論文報告会 * ・修士論文対面指導
	1月	【修士論文】最終提出 ◆ 最終審査（口頭試問）
	3月	修了判定結果発表 研究科合同修士論文発表会 学位記授与式

### ❖ 研究方法の基礎を修得

社会福祉研究法論特講（1年次前期の必修科目）および領域演習（4月～7月の第1学習パート）において、研究の「目と構え」、基礎的な研究方法等を修得します。

### ❖ 課題提出

2年次の修士論文最終提出までの間には、以下の課題提出が課され、段階を踏んで修士論文へと練り上げていきます。

#### ◆ 研究計画書(1年次前期)

入学時の研究計画をさらに練り上げ、主として研究テーマ・研究の目的・研究の背景・研究の内容・研究の方法・研究の意義等について作成する。

#### ◆ 課題小論文(1年次後期・2年次後期)

1年次後期…研究テーマ(予定)と先行研究のまとめ。  
2年次中期…これまでの研究で得た成果や現段階での仮説・見解等についてのまとめ。

#### ◆ 修士学位請求論文執筆計画書(2年次前期)

1年次後期の課題小論文を踏まえ、主として、研究テーマ・研究の目的・研究の背景・研究の内容・研究の方法・研究の意義等について作成。

#### ◆ 修士論文 第1次提出(2年次後期)

最終提出の前段階に学位授与審査委員(主査・副査)予定教員による査読と指導を受け、一定水準以上の修士論文の最終的完成を図る。

#### ◆ 修士論文 最終提出(2年次後期)

### ❖ プレゼンテーション

\* 修士論文構想報告会（1年後期）

\* 修士論文中間報告会（2年前期）

\* 修士論文報告会（2年後期）

スクーリング時に設定されている報告会は、広く研究科の教員や院生による評価や助言を仰ぎ、より質の高い論文の完成を期すためのプログラムです。発表・質疑を経験することで、プレゼンテーション能力を高めるとともに、研究の到達点・課題を確認し、修士論文完成から最終試験合格に向けた力量を着実に修得します。

## 7. 単位認定要件

### (1) 特講科目

成績評価は、原則としてレポート（科目担当教員の指定する、中間レポート及び期末レポートの計2回）と講義への参加状況を総合しておこなわれます。

なお、1年次必修科目「社会福祉研究法論特講」のみ対面授業の受講（4月・7月スクーリング）及び担当教員の指定する課題の提出により成績評価します。

※上記単位認定要件は各科目共通の基本要件です。科目により個別に単位認定にかかる要件が指定される場合があります。

### (2) 領域演習科目

領域演習対面授業（4月・7月・9月・12月スクーリング）の受講（12月はケース教材を用いた演習を行う予定）、及び科目担当教員の指定する計3回のレポート提出、共同討議への参加状況・内容などによる総合評価により成績評価します。

※上記単位認定要件は各科目共通の基本要件です。科目により個別に単位認定にかかる要件が指定される場合があります。

### (3) 特別研究指導演習科目

#### ①特別研究指導演習Ⅰ（1年次）

本課程1年次に必要とされる修士論文指導を受けるとともに、1年次に課される次の修士論文関連課題の全てを各年度で定める期日までに提出・報告をすることにより成績評価します。

- a) 1年生研究計画書の提出
- b) 1年生課題小論文の提出
- c) 1年生修士論文中間報告会(修士論文構想報告会)報告書提出と報告会での報告

#### ②特別研究指導演習Ⅱ（2年次）

本課程2年次に必要とされる修士論文指導を受けるとともに、2年次に課される次の修士論文関連課題の全てを各年度で定める期日までに提出・報告をした上、学位請求論文の提出並びに学位授与最終試験に合格することにより成績評価します。

- a) 修士学位請求論文執筆計画書の提出
- b) 2年生修士論文中間報告会報告書提出と報告会での報告
- c) 2年生課題小論文の提出
- d) 修士学位請求論文第1次提出並びに修士学位請求論文最終提出

## 8. 成績評価基準

- (1) 履修科目については、授業科目ごとに試験（レポート等）が行われます。
- (2) 成績は100点満点で評価し、60点以上を合格とし所定の単位修得が認められます。
- (3) 科目の成績発表は前期と後期(年度末)の2回おこないます。
- (4) 成績評価基準は、次の基準に基づいておこなわれます。

#### □特講科目・領域演習科目 成績評価

評価	評価点	判定
A	100点 ~ 80点以上	合格
B	80点未満~ 70点以上	
C	70点未満~ 60点以上	
D	60点未満	不合格

#### □特別研究指導演習Ⅰ（1年次の修士論文指導）成績評価

評価	判定
G	合格

□特別研究指導演習Ⅱ（2年次の修士論文指導）成績評価

評価	評価点	判定
S	100点 ~ 90点以上	合格
A	90点未満~ 80点以上	
B	80点未満~ 70点以上	
C	70点未満~ 60点以上	
D	60点未満	不合格

□入学前既修得単位認定科目 成績評価

評価	判定
N	認定

## 9. 修士学位請求論文提出に向けて

### □1年次

#### 1) 修士論文構想報告会（中間報告会）での発表

1年生課題小論文及び修士論文構想報告会報告書の双方を提出した者について、修士論文構想報告会（中間報告会）を開催する。

#### 2) 合同修士論文発表会への参加

2年生（修了予定者）が発表する合同修士論文発表会に全員参加する。

### □2年次

#### 1) 修士論文中間報告会での発表

この修士論文中間報告会は、単に研究の願望や決意表明等を行う場ではなく、基本的に研究の進捗、とくに論文執筆の進捗を報告し、多くの参加者からの批判を仰ぐ場である。したがって、これまでに何を成し遂げ、今後何をどのように詰めるかを報告しなければならない。具体的には、論文の全体構成、先行研究の総括、分析や検討の途中経過、現段階での自分自身の仮説や見解などについて述べる。報告時間は1人あたり13分（発表8分/質疑応答・討論5分）程度を予定し、社会福祉学研究科内（院生・教員）で公開とします。

#### 2) 修士論文及び要旨の第1次提出

この修士論文【第1次提出】は、最終提出の前段階に学位授与審査委員（主査・副査）予定教員による査読と指導を受け、一定水準以上の修士論文の最終的完成を図るためのものである。このプロセスでの指導をより有効なものにするためには、できるだけ第1次提出の論文を完成版に近いものを提出し、それについての査読・指導を受けることが求められる。

#### 3) 修士論文報告会での発表<2年次>

この修士論文報告会は、修士論文【第1次提出】と同様、自身の修士論文について、最終提出の前に、広く研究科の教員や他の院生による評価や助言を仰ぎ、より質の高い論文の完成を期すためのプロセスである。院生は、主査・副査予定教員による指導とともに、このプロセスにおける助言等を踏まえ、最終提出に向け、修士論文の最終的な修正と完成を行うこととなる。時間は1人あたり20分（発表10分/質疑応答・討論10分）を予定し、社会福祉学研究科内（院生・教員）で公開とします。当日の資料は、修士論文第1次提出時の修士論文要旨を使用します。

#### 4) 修士論文及び要旨の最終提出

正式には、これは修士学位授与申請手続きであり、指導教員による最終的な確認と承諾と署名を得た上で、所定の申請書書類を整え提出する。当該申請後、修士論文の書き換え、関係書類・資料の追加等は一切認められない。

## 5) 修士学位授与審査：口頭試問

口頭試問は、学位授与審査の一環として、審査委員会（主査1名・副査2名）が、修士論文及び関連事項についての質疑応答をおこなう。1人あたりの時間は約30分程度の予定。

## 6) 合同修士論文発表会での発表

# 10. 修士学位授与申請と学位授与審査

## □修士論文提出に関する手続き

修士論文は、学年暦で指定された期日までに、大学院事務室に第1次提出してください。院生は、修士論文第1次提出に対する指導を受けて論文を修正し、第2次（最終）提出論文を作成します。

第2次提出論文作成に向けては、副査委員1より指導を受けることができます。主査委員、副査委員1・2については社会福祉学研究科委員会で決定し公表します。第2次（最終）提出以降は修士論文の一切の修正を認めません。

最終審査は、論文審査と面接による口頭試問により行います。

## □修士論文

### 1 修士論文とは

社会福祉学専攻修士課程（通信教育）においては、修士学位請求論文は修士論文とします。

修士論文とは、あるテーマについて①先行研究を踏まえて、②研究目的を設定し、③研究方法を明示した上で、④研究結果を記述し、⑤信頼性や妥当性、限界などを考察し、⑥何が明らかになったか結論を明示した論文です。本文（注・引用文献を含む）の分量の目安は30,000字程度以上、この分量には参考文献、資料は含みません。

## 修士論文の審査体制

大学院の担当教員の中から、主査1名・副査2名（副査1・副査2）を選出し、修士学位授与審査委員会を設置します。

## 【各審査委員の役割】

- (1) **主査**：修士学位授与申請者の指導教員が担当。  
第1次提出…修士論文の査読をおこない、修士論文報告会に出席します。  
最終提出…修士論文の査読と最終試験（口頭試問）をおこないます。
- (2) **副査1**：研究科委員会で決定し、11月に院生に発表予定。  
第1次提出…修士論文の査読をおこない、修士論文報告会に出席します。  
最終提出…修士論文の査読と最終試験（口頭試問）をおこないます。  
※修士学位授与申請者は、修士論文の第1次提出以降、最終提出までの間、副査1の担当教員から指導を受けることができます。
- (3) **副査2**：研究科委員会で決定し、12月に院生に発表予定。  
最終提出…修士論文の査読と最終試験（口頭試問）をおこないます。